

第16回定時株主総会開催

去る6月15日（水）、センチュリーロイヤルホテルにおいて、当社の株主である道内全23金庫のご出席（委任状出席5金庫含）をいただき、第16回定時株主総会を開催いたしました。

当日は、第15期（平成27年度）事業報告に引き続いて、第1号議案の第15期（平成27年）貸借対照表・損益計算書・株主資本等変動計算書承認の件、第2号議案の余剰金の処分の件、第3号議案の任期満了に伴う取締役選任の件、第4号議案の取締役・監査役報酬総額決定の件についてご審議いただき、原案通り承認されました。また、第3号議案の任期満了に伴う取締役の選任の件につきましては、石田芳人理事長（苫小牧信用金庫）が新たに選任されました。今回、任期満了により退任されました太布康洋理事長（北見信用金庫）には、これまでのご尽力に対し、この書面をお借りいたしまして、御礼申し上げます。

なお、会議に先立ち、増田社長から次のとおりご挨拶がございました。



＜挨拶内容＞

本日は、総代会を控え大変お忙しいところ、ご出席いただき誠にありがとうございます。

日頃は、当社の運営につきまして格別のご支援ご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、共同センターの組織統合から早いもので2年が経過いたしました。昨年8月には、更なるコストダウンの一環である全国のサテライトレス化を、北海道地区も実施いたしました。

組織統合後は、共同加盟金庫の皆様にはセンターとの距離感や、不便さを感じているところ

があるかもしれません。しかし、この状況には慣れていかなければならず、当社はこうしたセンターとの間に生じた距離を埋める重要な役割を果たしていくなければならないと考えております。



また、道内金庫の重要な経営インフラとして、低廉で安定したサービスの提供を続けてまいりました。この2年の間、組織統合をした結果として、課題が全くないわけではありません。組織としては弱体化したことも否めませんが、センター業務を受託したことや、何より会員の皆様のお力添えにより、お陰様で収益的には上向いており、昨年度も含めて財務体質は相当強化することができました。これにより、当初の課題にもしっかりと取組める環境が整ったと思います。

現在、マイナス金利下で道内の株主信用金庫も収益状況が大変厳しいと認識しております。引き続き業務の効率化とコストダウンに繋がるような業務開発やサービスの提供に努めたいと思います。また、当社が永続できるような経営体質の強化にも併せて取組んでまいりますので、今後とも変わらぬご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

取締役および監査役

代表取締役社長	増田 正二	(帯広信用金庫会長)
代表取締役副社長	小嶋 俊明	(北門信用金庫理事長)
代表取締役副社長	遠藤 修一	(大地みらい信用金庫理事長)
代表取締役専務	竹谷 信行	
取 締 役	吉本 淳一	(札幌信用金庫会長)
〃	石田 芳人	(苫小牧信用金庫理事長)
〃	館崎 雄二	(伊達信用金庫理事長)
〃	藤谷 直久	(江差信用金庫理事長)
〃	池田 達哉	
〃	武田大二郎	
監 査 役	岡本 守	(北星信用金庫理事長)
〃	伊藤 修治	(北海道信用金庫協会 専務理事)

当社仮想サーバのご利用について

当社仮想サーバにつきましては、昨年5月のHBAビルへの移転に合せ、当社提供システムの将来的基盤とすべく、堅牢な本ビルデータセンター内に構築いたしました。

移転と同時にハード設備費用の低減ならびに安全性・信頼性の向上等を目的に、更改時期が到来した「イメージデータ保存検索システム」を本サーバに構築し、サービスを提供しておりますが、その後、新たな提供システムであります、「営業支援システム」ならびに「新TV会議システム（Live On）」についても本サーバ上にシステムを構築いたしました。

新たなハードの調達に関する期間が不要となり、構築期間も従来に比べ短縮されますので、短期間でのサービス提供が可能となります。

当社内のシステムに留まらず、従来は金庫に設置していた「補完システム」についても、仮想サーバに搭載していただくことにより、サーバを隔地保管するBCP的観点と、金庫のサーバ管理・運用面の負荷軽減にも十分な効果が期待できることから、現在2金庫にご利用いただいており、今年度において新たに1金庫に導入いただく事が決まっております。

当社仮想サーバは安全性・信頼性の高いデー

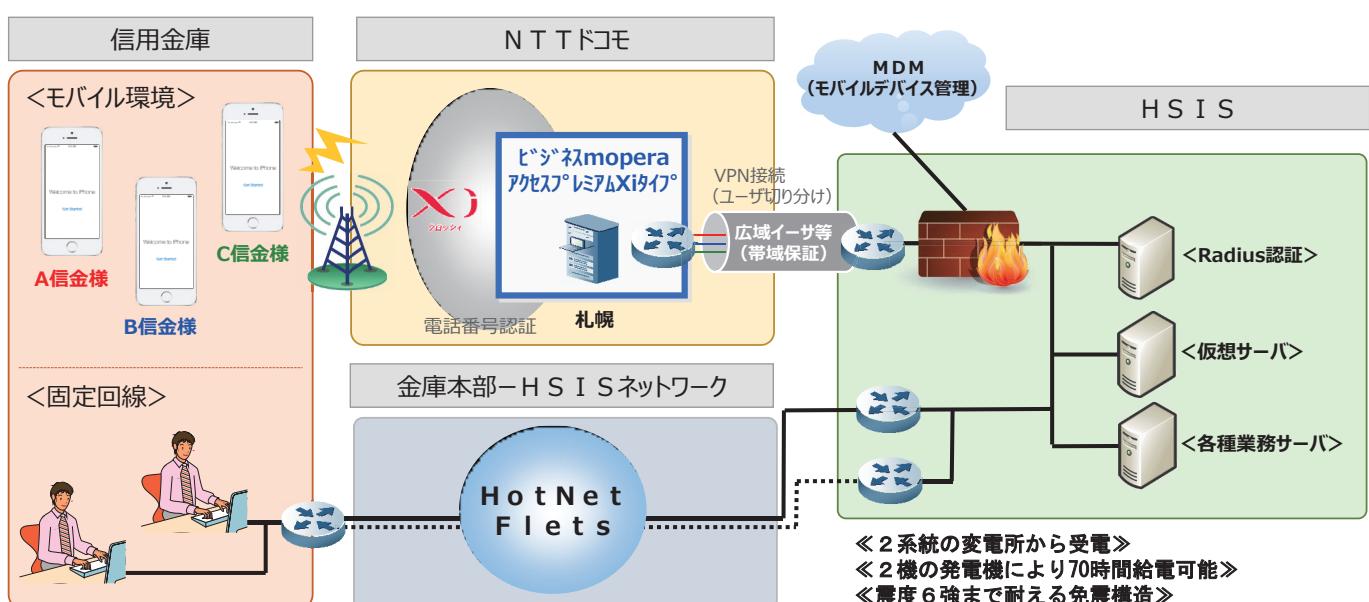
タセンターに構築しておりますので、ファイルサーバ等の重要なデータを含むサーバにつきましても安心して本サーバへ構築していただくことができますことから、当社提供サービス以外においても各種業務を導入される際には、是非、本仮想サーバでの構築をご検討いただきますようお願いいたします。

さらに、スマートフォンおよびタブレットから当社仮想サーバにアクセスできるよう、NTTドコモの閉域網サービス（アクセスプレミアム）の導入を進めています。

このサービスをご提供することにより、渉外担当員がお客様を訪問中、各種業務サービスに安全にアクセスする事が可能となりますので、お客様への情報提供ならびに各種届出業務等に活用できるメリットがございます。

現在、既に数金庫が導入を検討しており、また金庫様が共同でご利用いただくことにより大幅な費用の低減が見込めますので、本サービスを利用した仮想サーバへのシステム構築につきましても、併せてご検討いただきますようよろしくお願い申し上げます。

【お問合せ先：企画・営業推進部】



営業支援システムの現況について

当社取扱い商品の一つとして、地図情報システムとの連携等を特長とした、営業推進活動全般を支援する「営業支援システム」を提供しております。

本システムは、「営業支援システム」「地図情報システム」「エリア分析システム」「タブレット端末連携システム」「預り証発行システム」の5つのシステムを基本として構成しており、使い勝手の良い顧客台帳や日報等の作成・管理、金庫独自のカスタマイズを可能とするも、大手メーカーの同様のシステムに比べ、大幅に安価に利用できるシステムとなっております。

本年3月、渡島信用金庫様が本システムを導入・稼働いただきましたが、導入の決め手として「当金庫の要望に対し、気軽にタイムリーにかつ的確に対応してくれる」、「実際に利用開始

後、一定期間は無料で機能改善に応えてくれる」、そして何より「安価である」等、金庫様のご希望に沿った提供を可能とし、大変ご好評をいただいております。

渡島信用金庫様には、当社の「仮想サーバ」上で本システムを構築いただき、日次データから金庫様が必要とする顧客情報を読み込み、画面や帳票に出力して利用していただいております。

現在も数金庫で導入のご検討をいただいておりますが、今後はタブレット端末の利用推進を併せて行う等、より一層金庫様の運用に合わせて利用していただけるよう研究・検討してまいりますので、是非ご検討いただきますようよろしくお願いいたします。

【お問合せ先：企画・営業推進部】

I Bヘルプデスク開始

インターネットバンキング（I B）については、顧客からの問合せ対応に金庫担当者が相当な時間と事務負担を強いられていた事から、ヘルプデスクの設置について検討を行ってまいりました。

その結果、全国の情報サービス会社の中で、既に充実したサービスを安価に提供している（株）中国しんきん総合サービス（C S S）のE Bサポート課に業務委託をする方針で検討、C S S側の多大なるご協力もいただき、本ヘルプデスク業務の提供が実現いたしました。

昨年12月には、当地区最初の利用金庫となります北見信用金庫様と現地C S S・E Bサポート課を視察し、その後順調に準備を進めまして、平成28年2月、無事スタートすることができました。

現在、中国地区では広島県内4信金（広島、呉、しまなみ、広島みどり）の他、鳥取、倉吉、水島、吉備、西中国信金がご利用されており、金庫によってはお客様からの問合せ対応の他に、

新規申込等の受付事務も請け負っております。

なお、北海道地区からは現在更に3金庫の利用意思表明をいただいており、うち2金庫については今年度中に利用開始する予定で準備中です。

親切丁寧な応対で大変ご好評をいただいており、全国の情報サービス会社を跨ぐ初のサービス提供として、更なるご利用をお待ちしております。



【C S S E Bヘルプデスク課】

テレビ会議システム (Live On) のご紹介

TV会議システムについては、出張旅費等の経費削減はもとより、業務効率化・情報共有の効率化、さらには会議に伴う移動リスクの削減といった様々な効果が期待でき、近年、システム導入の広がりをみせております。

当社では、従来取扱っていたテレビ会議システムの問題点を研究し、金庫が満足して利用いただくには更に高性能で高品質な、本当に「使える」システムでなければならないと考え、昨年から新テレビ会議システム「Live On」の取扱いを開始いたしました。

新システムは、音声の途切れ・遅延を防ぐ高度な独自技術を採用し、ストレスのないクリアな音声・臨場感のある滑らかな映像を実現いたします。

操作方法については、パソコン操作に不慣れな方でも簡単に直感的な操作が可能で、ログイン後、わずか2クリックで会議がスタートできます。



—数々の受賞実績が性能・品質の高さを裏付けしております—



また、主に金庫内会議・ミーティングや研修等で利用される場面から、更に発展してご利用していただけるよう、本システムのサーバは金庫内での構築ではなく、当社「仮想サーバ」上で構築することで推進しております。

これにより自金庫内の利用に止まらず、「各金庫間での情報交換・共有」などに活用できるようになり、会議開催まではいかない相談事項や金庫間での多彩なコミュニケーションツールとしてご利用いただけます。

昨年、北空知信用金庫様に導入いただいたのを皮切りに、新たに6信金に導入いただき、大変ご好評をいただいております。

高性能・高品質・簡単操作で、更には金庫間のTV会議も行える「新テレビ会議システム (Live On)」の導入を心よりお待ちしております。

【お問い合わせ先：企画・営業推進部】

社内会議



朝礼・訓示・イベントなどの配信



教育・研修・セミナー



遠隔教育・サポート・相談窓口



「HSIS☆ニュース」創刊にあたり

平素は、弊社の業務運営に格別のご高配を賜りまして、本誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、かつて北海道信金共同事務センターが、発足当時の昭和50年から平成26年1月の第132号（最終号）まで発刊、道内信用金庫の皆様にご愛読いただいた「センターニュース」は、組織統合により残念ながら廃刊となりました。

当時、同ニュースは、センターの最新の動向をお知らせする事はもとより、センター業務へのご理解を得る、金庫とセンターとの架け橋となる貴重なツールとして発刊しておりました。

廃刊から早くも2年半の歳月が経ちましたが、この間、何とか本機関誌を復刊して、また広く皆様に読んでいただき、今度は北海道しんきん情報サービスという会社と同じ業界の仲間と

して、身近な存在として、とにかく知っていたいきたいと切望しておりました。

この度、組織再編後、弊社の体制整備ならびに業務が漸く軌道に乗ってきた事もあり、当時のセンターニュース同様の目的で、名称を「HSIS☆NEWS」として装いも新たに創刊する運びとなりましたので、是非、信用金庫の皆様にはご愛読いただき、本誌が弊社へのご理解とご支援を賜る一助となれば、この上ない喜びでございます。

今後も精一杯、皆様のお力になれる会社を目指して業務に邁進して参りますので、本誌を通じてまずは「身近な存在」として認知していただきますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

編集責任者 武田 大二郎